



テンプレートを使用して、リソース作成を標準 化します AppTemplate

NetApp
May 16, 2022

目次

テンプレートを使用して、リソース作成を標準化します	1
組織のアプリケーションテンプレートを作成します	1
テンプレートのコンプライアンスについては、リソースを確認してください.....	30
テンプレートを使用してリソースを作成または変更する	34

テンプレートを使用して、リソース作成を標準化します

組織のアプリケーションテンプレートを作成します

ネットアップが提供する「アクション」を 1 つ以上選択し、組織がリソース作成の最適化を開始するために使用できるアプリケーションテンプレートを迅速に構築します。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

 **必要な前提条件を確認します**

- ユーザがテンプレートを使用して Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP、または Azure NetApp Files システム用のボリュームを作成する前に、ボリュームを導入する適切な作業環境にアクセスできることを確認してください。
- クラウドサービス「action」をテンプレートに追加する場合（など） ["クラウドバックアップ"](#) または ["クラウドデータの意味"](#) をクリックして、ご使用の環境でサービスがアクティブでライセンスされていることを確認してください。
- AppTemplate* サービスを選択し、* エディタ * タブをクリックして、テンプレートで使用するアクションを選択します。

作成手順に従い、テンプレートによって実行されるアクションを定義します。

要件

以下の要件を読み、サポートされている構成になっていることを確認してください。

- コネクタがない場合は、 ["コネクターの作成方法を参照してください"](#) AWS、Azure、GCP 向け。
- Cloud Volumes ONTAP ボリュームテンプレートを作成する際には、Cloud Volumes ONTAP 作業環境がユーザに利用できることを確認してください。で Cloud Volumes ONTAP システムを起動する方法を参照してください ["AWS"](#)、 ["Azure"](#) または、のいずれかです ["GCP"](#)。
- オンプレミスの ONTAP ボリュームテンプレートを作成する場合は、オンプレミスの ONTAP 作業環境がユーザに利用できることを確認します。方法を参照してください ["オンプレミスの ONTAP システムを検出"](#) をクリックします。
- Azure NetApp Files ボリュームテンプレートを作成する際には、Azure NetApp Files の作業環境がユーザに割り当てられていることを確認します。方法を参照してください ["Azure NetApp Files 作業環境を作成します"](#) をクリックします。
- クラウドバックアップを使用してテンプレート内のボリュームをバックアップする場合は、環境が Cloud Backup をアクティブ化していることを確認してください。
- クラウドデータセンズを使用してテンプレート内のボリュームをスキャンする場合は、クラウドデータセ

ンスがアクティブ化されていることを確認してください。

- テンプレートでレプリケーションを有効にする場合、オンプレミスの ONTAP ボリューム用のテンプレートを使用するには、ONTAP クラスタにアクティブな SnapMirror ライセンスが必要です。

テンプレートを使用してリソースを作成する例

リソーステンプレートを使用して、新しいボリュームや新しい Cloud Volumes ONTAP 作業環境を作成できます。

Cloud Volumes ONTAP ボリュームのテンプレートを作成します

を参照してください "[Cloud Volumes ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法](#)" Cloud Volumes ONTAP ボリュームテンプレートで実行する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

この例では、「データベース用の CVO ボリューム」という名前のテンプレートを作成し、次の 2 つのアクションを含めます。

- Cloud Volumes ONTAP ボリュームを作成します

AWS 環境のボリュームを 100GB のストレージで設定し、Snapshot ポリシーを「default」に設定し、Storage Efficiency を有効にします。

- Cloud Backup を有効にします

30 個の日単位バックアップ、13 個の週単位バックアップ、3 個の月単位バックアップを作成します（_3 カ月保持ポリシーを使用）。

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックして、* Add New Template * をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.

Start with a template of:

Blank template


Volume for Cloud Volumes ONTAP

Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup

Volume for Azure NetApp files

Get Started

Cancel



- 作成するリソースのタイプとして * Cloud Volumes ONTAP + Backup * のボリュームを選択し、* Get Started * をクリックします。

Cloud Volumes ONTAP アクション定義ページでのボリュームの作成（_Create Volume in Action Definition_page）が表示されます。

Enter a name for this template

Reset Zoom

```

graph TD
    A[Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)] -- "+" --> B[Enable Cloud Backup On Volume (#a09)]
            
```

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)

Action Definition

Details

Volume Name ☐ Editable ☐ Drift

Volume Size (GB)

Minimum ☐ Maximum ☐

Fixed value ☒

Tags ☒ Editable ☐ Drift

[+ Add Tags](#)

Protection

Snapshot Policy ☐ Editable ☐ Drift

Usage Profile

[Apply](#) [Cancel](#)

- * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。

4. * コンテキスト： * Cloud Volumes ONTAP 作業環境コンテキストを入力します（必要な場合）。

ユーザが既存の作業環境からテンプレートを起動すると、この情報は自動的に入力されます。

ユーザが（作業環境ではなく） Templates Dashboard からテンプレートを起動する際には、作業環境とボリュームを作成する SVM を選択する必要があります。そのため、これらのフィールドは「編集可能」としてマークされます。

5. * 詳細： * ボリュームの名前とサイズを入力します。

フィールド	説明
ボリューム名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。たとえば、「db」には必須のプレフィックス、サフィックス、またはに次の名前を指定できます。「db_vol1」、「vol1_db」、「vol_db_1」などのボリューム名を追加するようユーザに要求できます。
ボリュームサイズ	許容値の範囲を指定することも、固定サイズを指定することもできます。この値は GB 単位です。この例では、固定値 100 を追加できます。
タグ	このボリュームに関連付けるタグの名前と値のペアを入力します。たとえば、タグ名に「コストセンター」を追加し、コストセンターコード「655829」を値として追加できます。タグ名と値のペアをさらに追加することで、ボリュームに複数のタグを関連付けることができます。

6. * 保護： * 「default」またはその他のポリシーを選択して Snapshot コピーを作成するか、Snapshot コピーを作成しない場合は「None」を選択します。
7. * 使用プロファイル： * ネットアップの Storage Efficiency 機能をボリュームに適用するかどうかを選択します。これには、シンプロビジョニング、重複排除、圧縮が含まれます。この例では、Storage Efficiency を有効にしておきます。
8. * ディスクタイプ：クラウドストレージプロバイダとディスクタイプを選択ディスクの選択によっては、最小および最大の IOPS またはスループット（MB/秒）値を選択することもできます。基本的には、特定の Quality of Service（QoS；サービス品質）を定義します。
9. * プロトコルオプション： * NFS * または * SMB * を選択して、ボリュームのプロトコルを設定します。次に、プロトコルの詳細を指定します。

NFS フィールド	説明
Access Control の略	ボリュームへのアクセスにアクセス制御が必要かどうかを選択します。
エクスポートポリシー	ボリュームにアクセスできるサブネット内のクライアントを定義するエクスポートポリシーを作成します。
NFS バージョン	ボリュームの NFS バージョンを選択します。nfsv3_or_nfsv4、またはその両方を選択できます。

SMB フィールド	説明
共有名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前（フリーテキスト）を入力するか、共有名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付加する、_contains_certain 文字を使用する、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定できます。
権限	ユーザとグループ（アクセス制御リストまたは ACL と呼ばれる）の共有へのアクセスのレベルを選択します。
ユーザ / グループ	ローカルまたはドメインの Windows ユーザまたはグループ、あるいは UNIX ユーザまたはグループを指定します。ドメインの Windows ユーザ名を指定する場合は、domain\username 形式でユーザのドメインを指定する必要があります。

10. * 階層化：* ボリュームに適用する階層化ポリシーを選択します。このボリュームからオブジェクトストレージにコールドデータを階層化しない場合は、「なし」に設定します。

を参照してください ["ボリューム階層化ポリシー" 概要](#)については、およびを参照してください ["使用頻度の低いデータをオブジェクトストレージに階層化します"](#) をクリックして、環境が階層化用に設定されていることを確認してください。

11. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、* 適用 * をクリックする。

テンプレートの値が正しく入力されている場合は、[ボリュームを Cloud Volumes ONTAP に作成] ボックスに緑のチェックマークが追加されます。

12. Enable Cloud Backup on Volume * ボックスをクリックします。Cloud Backup on Volume Action Definition Dialog が表示され、Cloud Backup の詳細を入力できます。

Enable Cloud Backup On Volume (#a09)

Action Definition

Policy - Retention & Schedule

Backup Policy ☐ Editable ☐ Drift

Select policy

Context

Working Environment ☒ Editable ☐ Drift

Select Working Environment

Storage VM ☒ Editable ☐ Drift

Select Storage VM

Volume Name ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)

Volume Name

Apply Cancel

13. 3 カ月保持 * バックアップ・ポリシーを選択し、30 個の日単位、13 個の週単位、3 個の月単位バックアップを作成します。
14. [Working Environment] フィールドと [Volume Name] フィールドの下には、バックアップを有効にするボリュームを指定するために使用する 3 つの選択肢があります。を参照してください "[これらのフィールドの入力方法](#)"。
15. [適用] をクリックすると、[クラウドバックアップ] ダイアログが保存されます。
16. 左上に、データベース * (この例では) のテンプレート名 * CVO ボリュームを入力してください。
17. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、Cloud Manager は、このテンプレートの作成時に入力したパラメータのハードコーディング値を監視できます。

18. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

Azure NetApp Files ボリュームのテンプレートを作成します

Azure NetApp Files ボリュームのテンプレートは、Cloud Volumes ONTAP ボリュームのテンプレートを作成する場合と同じ方法で作成します。

を参照してください "[Azure NetApp Files ボリュームをプロビジョニングする方法](#)" ANF ボリュームテンプレートで実行する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックして、* Add New Template * をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.



Start with a template of:

☒ Blank template

☐ Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup

☐ Volume for Cloud Volumes ONTAP + Backup + Data Sense

☐ Volume for Azure NetApp files + Data Sense

Get Started

Cancel

2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。
3. 作成するリソースのタイプとして * Azure NetApp Files でボリュームを作成 * を選択し、* 適用 * をクリックします。

Azure NetApp Files アクション定義ページでのボリュームの作成（_Create Volume in Action Definition_page）が表示されます。

Enter a name for this template

Reset Zoom

Create Volume in Azure NetApp Files (#23c)

+

Create Volume in Azure NetApp Files (#23c)

Action Definition

Volume Details

Volume Name ? ☐ Editable ☐ Drift
Select...

Volume Size (GB) ☐ Editable ☐ Drift

Minimum ☐ Enter minimum Maximum ☐ Enter maximum

Fixed value ☒ Enter volume size in GB

Tags ☒ Editable ☐ Drift
☒ Add Tags

Protocol

Protocol ☐ Editable ☐ Drift
☒ NFSv3 ☐ NFSv4.1 ☐ SMB

Volume Path ? ☐ Editable ☐ Drift
Select...

Apply Cancel

4. * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。

5. * ボリュームの詳細： * ボリュームの名前とサイズを入力します。必要に応じて、ボリュームのタグを指定することもできます。

フィールド	説明
ボリューム名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。たとえば、「db」には必須のプレフィックス、サフィックス、またはに次の名前を指定できます。「db_vol1」、「vol1_db」、「vol_db_1」などのボリューム名を追加するようユーザに要求できます。
ボリュームサイズ	許容値の範囲を指定することも、固定サイズを指定することもできます。この値は GB 単位です。
タグ	このボリュームに関連付けるタグの名前と値のペアを入力します。たとえば、タグ名に「コストセンター」を追加し、コストセンターコード「655829」を値として追加できます。タグ名と値のペアをさらに追加することで、ボリュームに複数のタグを関連付けることができます。

6. * プロトコル：ボリュームのプロトコルを設定するには、* nfsv3 *、* NFSv4.1 *、または * smb * を選択します。次に、プロトコルの詳細を指定します。

NFS フィールド	説明
ボリュームパス	5つのオプションのいずれかを選択します。管理者が任意のパスを入力できるようにするには、* フリーテキスト * を選択するか、パス名に特定の接頭辞または接尾辞を付けるか、_contains_certain 文字を使用するか、または入力した正規表現（regex）の規則に従うように指定します。
エクスポートポリシー	ボリュームにアクセスできるサブネット内のクライアントを定義するエクスポートポリシーを作成します。

SMB フィールド	説明
ボリュームパス	5つのオプションのいずれかを選択します。管理者が任意のパスを入力できるようにするには、* フリーテキスト * を選択するか、パス名に特定の接頭辞または接尾辞を付けるか、_contains_certain 文字を使用するか、または入力した正規表現（regex）の規則に従うように指定します。

7. * コンテキスト： * Azure NetApp Files 作業環境、新規または既存の Azure NetApp Files アカウントの詳細、およびその他の詳細を入力します。

フィールド	説明
作業環境	ストレージ管理者ユーザが既存の作業環境からテンプレートを起動すると、この情報は自動的に入力されます。ユーザが（作業環境ではなく）Templates Dashboard からテンプレートを起動する場合、ボリュームを作成する作業環境を選択する必要があります。
ネットアップアカウント名	アカウントに使用する名前を入力します。
Azure サブスクリプション ID	Azure サブスクリプション ID を入力します。これは、「2b04f26-7de6-42eb-9234-e2903d7s327」のような形式のフル ID です。

フィールド	説明
地域	を使用してリージョンを入力します "内部リージョン名" 。
リソースグループ名	使用するリソースグループの名前を入力します。
Capacity Pool Name の略	既存の容量プールの名前を入力します。
サブネット	VNet とサブネットを入力します。この値には、完全パスが含まれます。形式は「 /subscription/<subscription_id>/resourceGroups/<resource_group>/provider/Microsoft.Network/virtualNetworks/<vpc_name>/subnets/<subhet_name>」です。

8. * Snapshot コピー： * 既存のボリュームの特性を使用して新しいボリュームを作成する場合は、既存のボリューム Snapshot の Snapshot ID を入力します。
9. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、* 適用 * をクリックする。
10. テンプレートに使用する名前を左上に入力します。
11. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、Cloud Manager は、このテンプレートの作成時に入力したパラメータのハードコーディング値を監視できます。

12. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

オンプレミスの **ONTAP** ボリューム用のテンプレートを作成します

を参照してください ["オンプレミスの ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法"](#) オンプレミスの ONTAP ボリュームテンプレートで実行する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックして、* Add New Template * をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.



Start with a template of:



Get Started

Cancel

2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。

Add New Action



Search for actions

ACTIONS - RESOURCES

Create Volume in Azure NetApp Files

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP

Create Volume in On-Premises ONTAP

Create Working Environment in AWS (single node)

ACTIONS - SERVICES

Activate Cloud Data Sense on Volume

Apply

Cancel

- 作成するリソースのタイプとして * Create Volume in On-Premises ONTAP * を選択し、* Apply * をクリックします。

オンプレミスの ONTAP アクション定義ページでのボリュームの作成（_Create Volume in On-Premises Action Definition_page）が表示されます。

The screenshot shows the 'Create Volume in On-Premises ONTAP (#7b6)' action definition page. The left pane displays a canvas with a single action box labeled 'Create Volume in On-Premises ONTAP (#7b6)'. The right pane contains the configuration details for this action, including fields for Volume Name, Volume Size (GB), Tags, Snapshot Policy, and Usage Profile. The 'Volume Size (GB)' section has options for Minimum, Maximum, and Fixed value. The 'Tags' section has an 'Add Tags' button. The 'Snapshot Policy' section has a dropdown menu. The 'Usage Profile' section has a dropdown menu. The 'Apply' and 'Cancel' buttons are at the bottom right.

- * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。
- * コンテキスト * : * 必要に応じて、オンプレミスの ONTAP 作業環境を入力します。

ユーザが既存の作業環境からテンプレートを起動すると、この情報は自動的に入力されます。

ユーザが（作業環境ではなく）Templates Dashboard からテンプレートを起動する際には、作業環境、SVM、およびボリュームを作成するアグリゲートを選択する必要があります。

- * 詳細 * : * ボリュームの名前とサイズを入力します。

フィールド	説明
ボリューム名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。たとえば、「db」には必須のプレフィックス、サフィックス、またはに次の名前を指定できます。「db_vol1」、「vol1_db」、「vol_db_1」などのボリューム名を追加するようユーザに要求できます。
ボリュームサイズ	許容値の範囲を指定することも、固定サイズを指定することもできます。この値は GB 単位です。この例では、固定値 100 を追加できます。

フィールド	説明
タグ	このボリュームに関連付けるタグの名前と値のペアを入力します。たとえば、タグ名に「コストセンター」を追加し、コストセンターコード「655829」を値として追加できます。タグ名と値のペアをさらに追加することで、ボリュームに複数のタグを関連付けることができます。

7. * 保護：* 「default」またはその他のポリシーを選択して Snapshot コピーを作成するか、Snapshot コピーを作成しない場合は「None」を選択します。
8. * 使用プロファイル：* ネットアップの Storage Efficiency 機能をボリュームに適用するかどうかを選択します。これには、シンプロビジョニング、重複排除、圧縮が含まれます。
9. * プロトコルオプション：* NFS * または * SMB * を選択して、ボリュームのプロトコルを設定します。次に、プロトコルの詳細を指定します。

NFS フィールド	説明
Access Control の略	ボリュームへのアクセスにアクセス制御が必要かどうかを選択します。
エクスポートポリシー	ボリュームにアクセスできるサブネット内のクライアントを定義するエクスポートポリシーを作成します。
NFS バージョン	ボリュームの NFS バージョンを選択します。 <i>nfsv3_or_nfsv4</i> 、またはその両方を選択できます。

SMB フィールド	説明
共有名	フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前（フリーテキスト）を入力するか、共有名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付加する、_contains_certain 文字を使用する、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定できます。
権限	ユーザとグループ（アクセス制御リストまたは ACL と呼ばれる）の共有へのアクセスのレベルを選択します。
ユーザ / グループ	ローカルまたはドメインの Windows ユーザまたはグループ、あるいは UNIX ユーザまたはグループを指定します。ドメインの Windows ユーザ名を指定する場合は、domain\username 形式でユーザのドメインを指定する必要があります。

10. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、* 適用 * をクリックする。

テンプレートの値が正しく入力されている場合は、「オンプレミスの ONTAP にボリュームを作成」ボックスに緑のチェックマークが追加されます。

11. 左上にテンプレート名を入力します。
12. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、Cloud Manager は、このテンプレートの作成時に入力したパラメータのハードコーディング値を監視できます。

13. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

Cloud Volumes ONTAP 作業環境のテンプレートを作成します

テンプレートを使用して、シングルノードまたは高可用性 Cloud Volumes ONTAP 作業環境を作成できます。



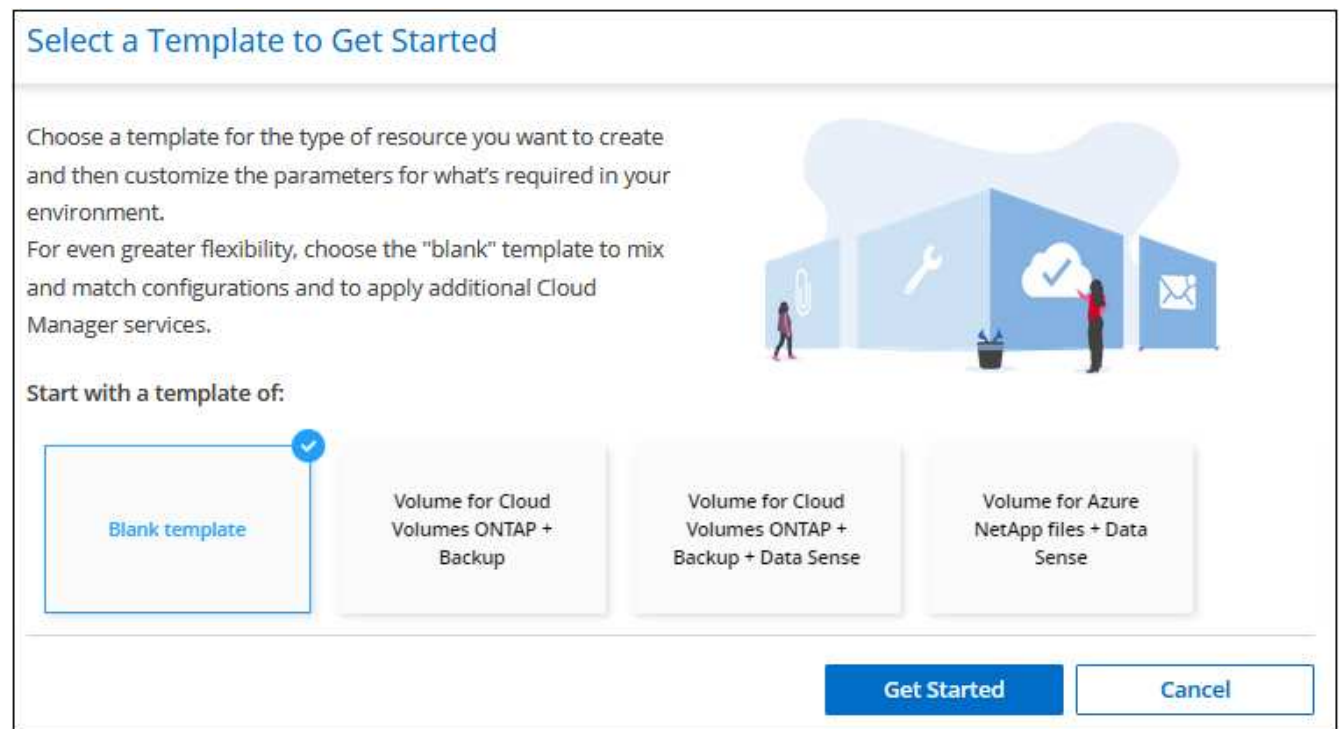
- このサポートは、現時点では AWS 環境に対してのみ提供されています。
- このテンプレートは、作業環境で最初のボリュームを作成するものではありません。ボリュームを作成するには、テンプレートに「Create Volume in Cloud Volumes ONTAP」アクションを追加する必要があります。

を参照してください ["AWS でシングルノードの Cloud Volumes ONTAP システムを起動する方法"](#) または ["AWS での Cloud Volumes ONTAP HA ペア"](#) 必要な前提条件については、このテンプレートで定義する必要があるすべてのパラメータの詳細については、を参照してください。

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックして、* Add New Template * をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。



2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。

Add New Action

Create Volume in Azure NetApp Files

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP

Create Volume in On-Premises ONTAP

Create Working Environment in AWS (high availability)



Create Working Environment in AWS (single node)

Find Existing Resources


3. 作成するリソースのタイプとして、 * Create Working Environment in AWS （シングルノード） * または * Create Working Environment in AWS （ハイアベイラビリティ） * を選択し、 * Apply * をクリックします。

この例では、「 _Create Working Environment in AWS （ single node ） _page 」が表示されます。

Create Working Environment in AWS (single node) (#a22)



Action Definition

Action Name 


Create Working Environment in AWS (single node) (#a22)

Details and Credentials

Credentials

☐ Editable ☐ Drift

X ▾


Working Environment Name 

☐ Editable ☐ Drift

Select... ▾

Tags

☒ Editable ☐ Drift

 Add Tags

4. * アクション名 * : オプションで、デフォルト値の代わりにカスタマイズされたアクション名を入力します。
5. * 詳細とクレデンシャル * : 使用する AWS クレデンシャルを選択し、作業環境名を入力して、必要に応じてタグを追加します。

このページの一部のフィールドは、説明のために用意されています。次の表では、ガイダンスが必要なフィールドについて説明します。

フィールド	説明
クレデンシャル	これらは、Cloud Volumes ONTAP クラスタ管理アカウントのクレデンシャルです。これらのクレデンシャルを使用して、ONTAP System Manager またはその CLI を使用して Cloud Volumes ONTAP に接続できます。
作業環境名	Cloud Manager は、作業環境名を使用して、Cloud Volumes ONTAP システムと Amazon EC2 インスタンスの両方に名前を付けます。また、このオプションを選択した場合は、事前定義されたセキュリティグループのプレフィックスとして名前が使用されます。フィールド内をクリックし、5 つのオプションのいずれかを選択します。管理者が任意の名前を入力できるようにするには、* フリーテキスト * を選択するか、作業環境名に特定の接頭辞または接尾辞を付けるか、_contains_certain 文字を使用するか、または入力した正規表現（regex）の規則に従うように指定します。
タグ	AWS タグは、AWS リソースのメタデータです。Cloud Manager は、Cloud Volumes ONTAP インスタンスおよびインスタンスに関連付けられた各 AWS リソースにタグを追加します。タグの詳細については、 AWS ドキュメント：「Tagging your Amazon EC2 Resources」 。

6. * 場所と接続 * : に記録したネットワーク情報を入力します "AWS ワークシート"。これには、AWS リージョン、VPC、サブネット、セキュリティグループが含まれます。

AWS Outpost を使用している場合は、Outpost VPC を選択して、その Outpost に単一のノードの Cloud Volumes ONTAP システムを導入できます。エクスペリエンスは、AWS に存在する他の VPC と同じです。

7. * 認証方法 * : 使用する SSH 認証方法として、パスワードまたはキーペアを選択します。

8. * データ暗号化 * : データ暗号化なし、または AWS で管理する暗号化を選択します。

AWS で管理する暗号化の場合は、アカウントまたは別の AWS アカウントから別の Customer Master Key (CMK ; カスタマーマスターキー) を選択できます。

["Cloud 用の AWS KMS の設定方法については、こちらをご覧ください Volume ONTAP の略"](#)。

9. * 充電方法 * : このシステムで使用する充電オプションを指定します。

["これらの充電方法について説明します"](#)。


10. * ネットアップサポートサイトのアカウント * : ネットアップサポートサイトのアカウントを選択します。

11. * 構成済みパッケージ * : 作業環境で作成されたボリュームのいくつかの要因を決定する 4 つの構成済みパッケージのいずれかを選択します

12. * SMB 構成 * : この作業環境で SMB を使用してボリュームを導入する場合は、CIFS サーバと関連する構成要素をセットアップできます。

13. このアクションに必要なパラメーターを定義したら、* 適用 * をクリックする。

テンプレートの値が正しく入力されている場合は、「Create Working Environment in AWS (単一ノード)」ボックスに緑のチェックマークが追加されます。

14. このテンプレートに別の操作を追加して、この作業環境用のボリュームを作成することもできます。その場合は、をクリックします  そのアクションを追加します。方法を参照してください [Cloud Volumes ONTAP ボリュームのテンプレートを作成します](#) を参照してください。

15. 左上にテンプレート名を入力します。

16. [* 設定とドリフト *] をクリックして、このテンプレートを他の同様のテンプレートと区別できるように、より詳細な概要を提供します。したがって、テンプレート全体のドリフトを有効にしてから、[* 適用 *] をクリックします。

ドリフトを使用すると、Cloud Manager は、このテンプレートの作成時に入力したパラメータのハードコーディング値を監視できます。

17. [テンプレートの保存 *] をクリックします。

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

テンプレートを使用して既存のリソースを検索する例

既存のリソースを検索 action を使用すると、特定の作業環境を検索したり、さまざまなフィルタを使用して既存のボリュームを検索したりできるため、検索対象を目的のリソースだけに絞ることができます。正しいリソースが見つかったら、作業環境にボリュームを追加するか、作成されたボリュームでクラウドサービスを有効にすることができます。



この時点で、Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP、Azure NetApp Files システム内にボリュームを見つけることができます。また、Cloud Volumes ONTAP とオンプレミスの ONTAP でクラウドバックアップを有効にすることもできます。追加のリソースとサービスは、後で利用可能になります。

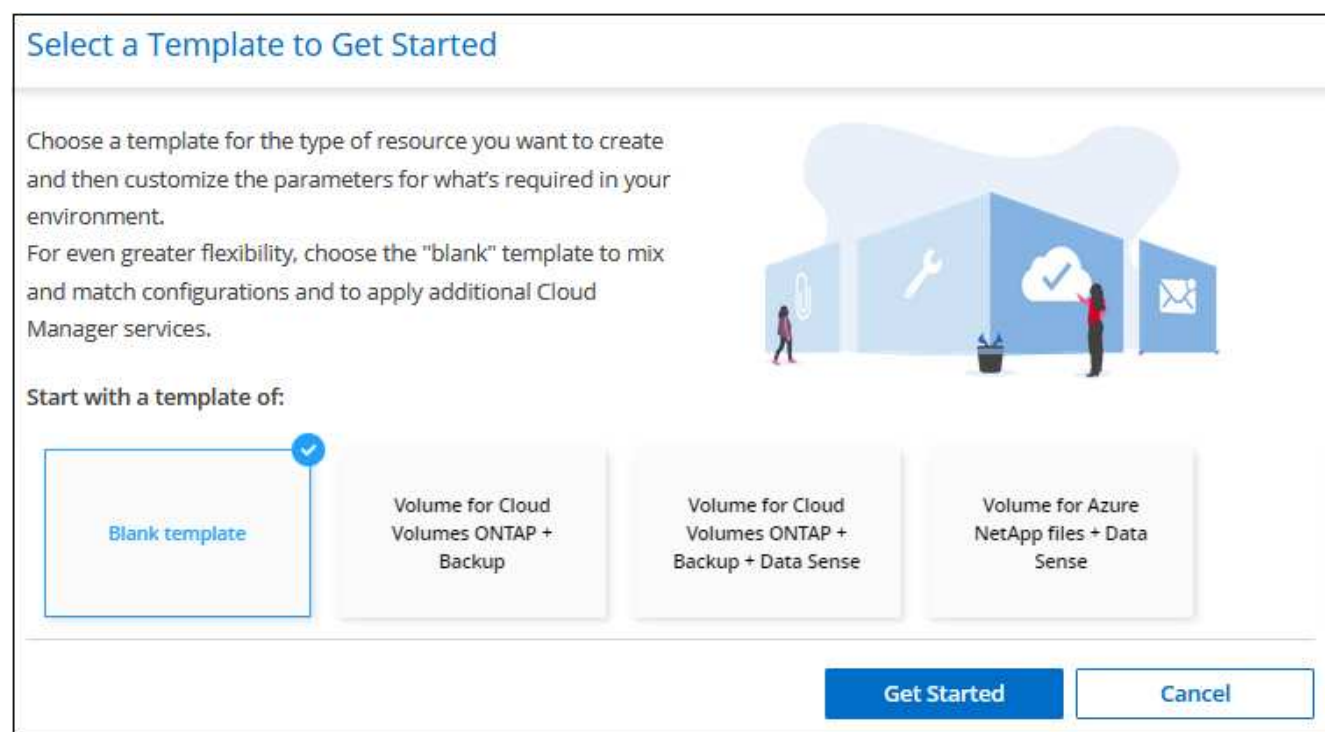
既存のボリュームを検索し、クラウドサービスをアクティブ化

現在の「既存のリソースを検索」アクション機能を使用すると、現在クラウドバックアップまたはクラウドデータセンズが有効になっていない Cloud Volumes ONTAP およびオンプレミス ONTAP 作業環境上のボリュームを検索できます。特定のボリュームで Cloud Backup を有効にすると、その作業環境のデフォルトポリシーとして設定したバックアップポリシーも設定されるため、作業環境の以降のすべてのボリュームで同じバックアップポリシーを使用できます。

手順

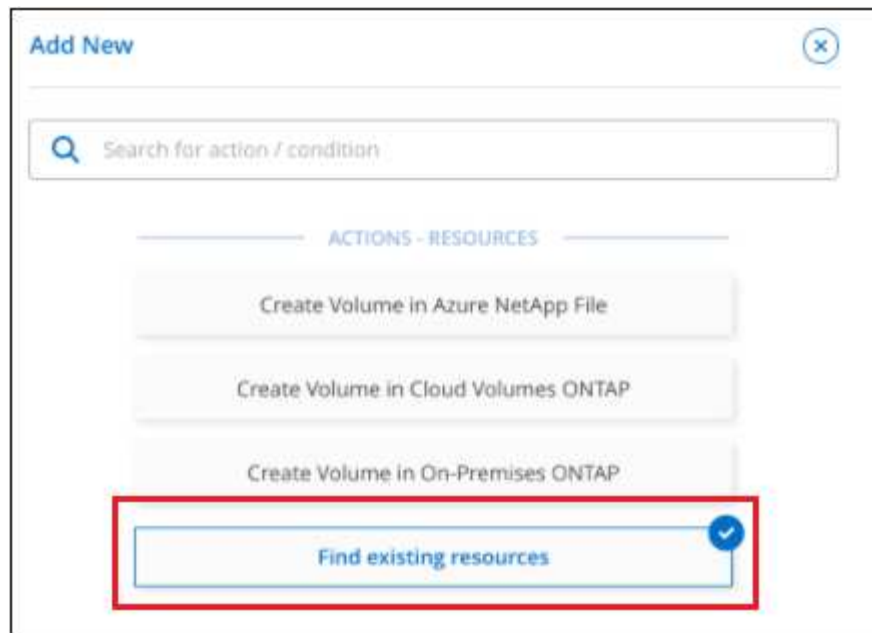
1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックして、* Add New Template * をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。



2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。



3. 定義するアクションのタイプとして * 既存のリソースを検索 * を選択し、* 適用 * をクリックします。

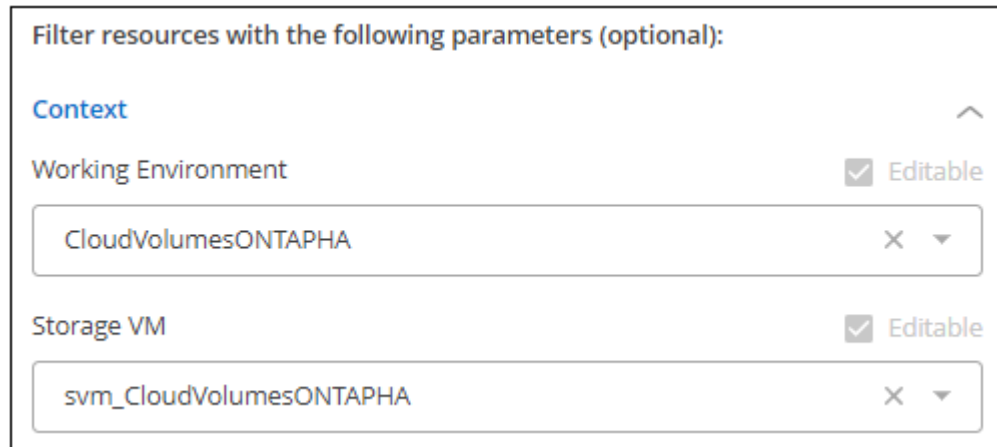
既存リソースを検索アクション定義ページが表示されます

4. * アクション名 * : デフォルト値の代わりに、カスタマイズされたアクション名を入力します。たとえば、「Cluster ABC で大容量ボリュームを検索してバックアップを有効にする」などです。
5. * リソースタイプ : * 検索するリソースのタイプを選択します。この場合は、「* Volumes in Cloud Volumes ONTAP *」を選択します。

このアクションに必要なエントリは、これだけです。「* Continue *」をクリックすると、環境内のすべての Cloud Volumes ONTAP システム上のすべてのボリュームのリストが表示されます。

代わりに、Cloud Backup アクションを適用する結果（この場合はボリューム）の数を減らすために、いくつかのフィルタを入力することを推奨します。

6. `_Context_area` では、特定の作業環境とその作業環境に関するその他の詳細を選択できます。



Filter resources with the following parameters (optional):

Context ^

Working Environment ☒ Editable

CloudVolumesONTAPHA X ▾

Storage VM ☒ Editable

svm_CloudVolumesONTAPHA X ▾

7. 詳細領域では、ボリューム名、ボリュームサイズの範囲、およびボリュームに割り当てられているタグを選択できます。

ボリューム名として、フィールド内をクリックし、5つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、`_contains_certain` 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。

ボリュームサイズの範囲を指定できます。たとえば、100GiB ~ 500GiB のすべてのボリュームを指定できます。

タグの場合、特定のタグキー / 値ペアを含むボリュームのみが結果に表示されるように、検索をさらに絞り込むことができます。

Details ⓘ

Volume Name ⓘ

Select...

Volume Size (GB)

Minimum
Maximum

Enter minimum
Enter maximum

Tags (up to 30)

Key (1)
Value (1)

×

+ Add Tags (up to 30)

8. [* Continue （続行）] をクリックすると、ページが更新され、テンプレートで定義した検索条件が表示されます。

Search Criteria ⓘ

Resource Type: Volumes in Cloud Volumes ONTAP

Working Environment: CloudVolumesONTAPHA

Storage VM: svm_CloudVolumesONTAPHA

Volume Size (GB): 100 - 500

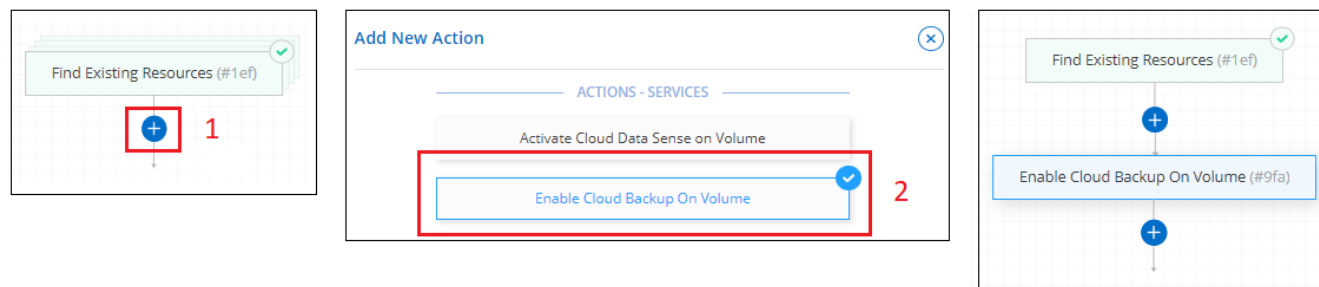
Test your search criteria now →

9. [検索条件を今すぐテストする] をクリックして、現在の結果を表示します。
- 結果が想定どおりでない場合は、をクリックします ⓘ をクリックし、さらに検索条件を絞り込んでください。
 - 結果が正常に表示されたら、「 * 完了 * 」をクリックします。

完成した既存のリソースを検索アクションがエディタウィンドウに表示されます

10. プラス記号をクリックして別のアクションを追加し、 * ボリュームでクラウドバックアップを有効にする * を選択して、 * 適用 * をクリックします。

[Enable Cloud Backup on Volume_action_] がウィンドウに追加されます。



11. で説明したように、バックアップ条件を定義できます [ボリュームにバックアップ機能を追加する](#) これにより、テンプレートは、既存のリソースを検索アクションで選択したボリュームに正しいバックアップポリシーを適用します。
12. [適用] をクリックして、[バックアップ] アクションに加えたカスタマイズを保存し、完了したら [テンプレートの保存] をクリックします。

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザーに説明する必要がある内容](#)。

既存の作業環境を検索

既存のリソースを検索アクションを使用すると '作業環境を検索し' ボリュームの作成などの他のテンプレートアクションを使用して '既存の作業環境に対して簡単にアクションを実行できます

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックして、* Add New Template * をクリックします。

Select_a Template_page が表示されます。

Select a Template to Get Started

Choose a template for the type of resource you want to create and then customize the parameters for what's required in your environment.

For even greater flexibility, choose the "blank" template to mix and match configurations and to apply additional Cloud Manager services.



Start with a template of:

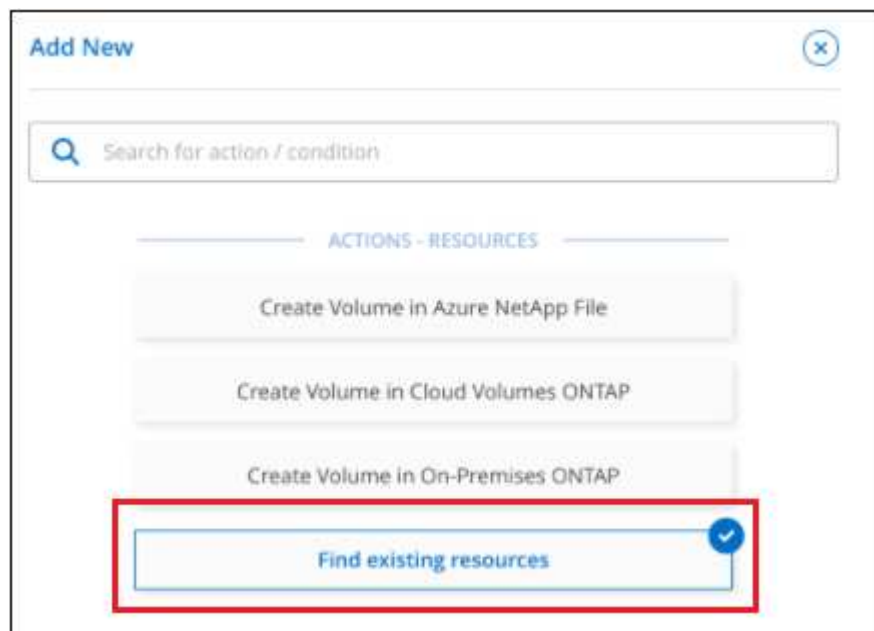


Get Started

Cancel

2. [空白のテンプレート] を選択し、[開始] をクリックします。

[新規アクションの追加 (Add New Action)] ページが表示されます。



3. 定義するアクションのタイプとして * 既存のリソースを検索 * を選択し、* 適用 * をクリックします。

既存リソースを検索アクション定義ページが表示されます

4. * アクション名 * : デフォルト値の代わりに、カスタマイズされたアクション名を入力します。たとえば、「ダラスを含む作業環境を検索」とします。
5. * リソースタイプ : * 検索するリソースのタイプを選択します。この場合は、* 作業環境 * を選択します。

このアクションに必要なエントリは、これだけです。[* Continue * Now] をクリックすると、環境内のすべての作業環境のリストが表示されます。

代わりに、いくつかのフィルタを入力して結果の数を減らすことを推奨します（この場合は作業環境）。

6. _Details_area でいくつかのフィルタを定義したら ' 特定の作業環境を選択できます
7. [* Continue * （続行）] をクリックして設定を保存し、[* Done * （完了 * ）] をクリックします。
8. 左上にテンプレート名を入力し、[テンプレートの保存] をクリックします

テンプレートが作成され、新しいテンプレートが表示されるテンプレートダッシュボードに戻ります。

を参照してください [テンプレートについてユーザに説明する必要がある内容](#)。

テンプレートを使用してサービスを有効にする例

サービステンプレートを使用すると、新しく作成したボリュームで Cloud Backup 、 Cloud Data Sense 、 Replication （ SnapMirror ） の各サービスをアクティブ化できます。

ボリュームにバックアップ機能を追加します

ボリュームテンプレートを作成する場合、を使用して定期的にボリュームのバックアップを作成するテンプレートに追加できます ["クラウドバックアップ"](#) サービス



この操作は Azure NetApp Files ボリュームには適用されません。

Enable Cloud Backup (#a09)

Action Definition

Action Name ⓘ

Enable Cloud Backup (#a09)

Policy - Retention & Schedule

Backup Policy ☐ Editable ☐ Drift

Select policy ▼

Context

Working Environment ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action	×	▼
Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)	×	▼
Working Environment	×	▼

Storage VM ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action	×	▼
Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)	×	▼
Storage VM	×	▼

Volume Name ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action	×	▼
Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#1da)	×	▼
Volume Name	×	▼

1. * Policy * : 使用するバックアップポリシーを選択します。
2. * コンテキスト * : デフォルトでは、作業環境、Storage VM、およびボリュームには変数が設定され、同じテンプレートで以前に作成したボリュームのバックアップを作成することを示します。これが必要な場合は、すべて設定されています。

別のボリュームのバックアップを作成する場合は、それらの詳細を手動で入力できます。方法を参照してください "[[コンテキスト \(Context\)](#)] フィールドに入力する" をクリックして、別のボリュームを指定します。

3. [適用] をクリックして変更を保存します。

データセンシブル機能をボリュームに追加します

ボリュームテンプレートを作成するときに、を使用してボリュームのコンプライアンスと分類をスキャンする

テンプレートにを追加できます "クラウドデータの意味" サービス

Activate Cloud Data Sense on Volume (#87e)

Action Definition

Action Name ⓘ

Activate Cloud Data Sense on Volume (#87e)

Context

Working Environment ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

Working Environment

×

▼

Volume Name ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

Volume Name

×

▼

Volume UUID ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get output value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

uuid

Volume Path ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

Volume Path

×

▼

Protocol ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get output value from action

×

▼

Create Volume in Azure NetApp Files (#a0f)

×

▼

protocolTypes

1. * コンテキスト * : デフォルトでは、作業環境、ボリューム名、ボリューム UUID、ボリュームパス、およびプロトコルの変数が入力されます。これは、この同じテンプレートで以前に作成したボリュームのデータをスキャンすることを示します。これが必要な場合は、すべて設定されています。

別のボリュームのデータをスキャンする場合は、それらの詳細を手動で入力できます。方法を参照してください ["\[コンテキスト \(Context \) フィールドに入力する\]"](#) をクリックして、別のボリュームを指定します。

2. [適用] をクリックして変更を保存します。

ボリュームにレプリケーション機能を追加します

ボリュームテンプレートを作成するときに、を使用してボリューム内のデータを別のボリュームにレプリケートするテンプレートに追加できます ["レプリケーション"](#) サービスデータは、 Cloud Volumes ONTAP クラスタまたはオンプレミスの ONTAP クラスタにレプリケートできます。



この操作は Azure NetApp Files ボリュームには適用されません。

レプリケーション機能は、ソースボリュームの選択、デスティネーションボリュームの選択、レプリケーション設定の定義の 3 つの部分で構成されます。各セクションについて以下で説明します。

1. * ソースの詳細 * : レプリケートするソースボリュームの詳細を入力します。

Source Details ⓘ

Source Working Environment ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action X ▾

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#b2e) X ▾

Working Environment X ▾

Source Storage VM ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action X ▾

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#b2e) X ▾

Storage VM X ▾

Source Volume Name ⓘ ☐ Editable ☐ Drift

Get input value from action X ▾

Create Volume in Cloud Volumes ONTAP (#b2e) X ▾

Volume Name X ▾

Source intercluster LIF IPs ⓘ ☒ Editable ☐ Drift

Intercluster LIF IP (1)

X

+

 Add Source intercluster LIF IPs

- a. デフォルトでは、作業環境、Storage VM、およびボリュームについて、最初の 3 つの変数が入力されます。これは、同じテンプレートで以前に作成したボリュームをレプリケートすることを示します。これが必要な場合は、すべて設定されています。

別のボリュームをレプリケートする場合は、それらの詳細を手動で入力できます。方法を参照してください ["\[コンテキスト \(Context\) フィールドにを入力する\]"](#) をクリックして、別のボリュームを指定します。

- b. レプリケーションを実行するには、ソースとデスティネーションの作業環境がそれぞれのクラスター間 LIF を介して接続されている必要があります。ソース作業環境のクラスター間 LIF の IP アドレスを入力します。

この情報を取得するには、作業環境をダブルクリックし、メニューアイコンをクリックして、[情報] をクリックします。

2. * デスティネーションの詳細 * : レプリケーション処理によって作成されるデスティネーションボリュームの詳細を入力します。

Destination Details ⓘ

Destination Working Environment ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select destination Working Environment▼

Destination Storage VM ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select destination Storage VM▼

Destination Provider ⓘ

☐ Editable☐ Drift

GCP×▼

☒ Enable Destination Volume Tiering ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Destination Volume name ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select...▼

Destination intercluster LIF IPs ⓘ

☒ Editable☐ Drift

Intercluster LIF IP (1)

×

+

 Add Destination intercluster LIF IPs

Select destination aggregate ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Automatically manage destination aggregate (recommended)×▼

Destination Disk Type ⓘ

☐ Editable☐ Drift

Select destination disk type▼

- a. ボリュームを作成する作業環境を選択します。

- b. ボリュームを配置する Storage VM を選択します。
 - c. ボリュームを（オンプレミスの ONTAP クラスタではなく） Cloud Volumes ONTAP クラスタにレプリケートする場合は、デスティネーションプロバイダ（AWS、Azure、GCP）を指定する必要があります。
 - d. ボリュームを Cloud Volumes ONTAP クラスタにレプリケートするときに、デスティネーションボリュームでボリューム階層化が有効になっているかどうかを指定することができます。
 - e. デスティネーションボリューム名について、フィールドをクリックし、5 つのオプションのいずれかを選択します。任意の名前を入力するには、* Free Text * を選択します。ボリューム名に特定のプレフィックスまたはサフィックスを付けるか、_contains_certain 文字を指定するか、または入力した正規表現（regex）のルールに従うように指定することもできます。
 - f. レプリケーションを実行するには、ソースとデスティネーションの作業環境がそれぞれのクラスタ間 LIF を介して接続されている必要があります。デスティネーション作業環境のクラスタ間 LIF の IP アドレスを入力します。
 - g. ボリュームを配置するアグリゲートを選択します。
 - h. ボリュームを（オンプレミスの ONTAP クラスタではなく） Cloud Volumes ONTAP クラスタにレプリケートする場合は、新しいボリュームに使用するディスクのタイプを指定する必要があります。
3. * レプリケーションの詳細 * : レプリケーション操作のタイプと頻度に関する詳細を入力します。

Replication Details ⓘ

Replication Policy ⓘ

☐ Editable
☐ Drift

Select replication policy ▼

Schedule

☐ Editable
☐ Drift

Select schedule ▼

☐ Replication Health Status

☐ Editable
☐ Drift

Enable Transfer Rate Limit

☐ Editable
☐ Drift

☒ Limit transfer rate
☐ Unlimited (recommended for DR only machines)

Transfer Rate Limit (KB/s) ⓘ

☐ Editable
☐ Drift

Minimum

Maximum

☐ Enter minimum
☐ Enter maximum

Fixed value

☒ Enter a value for transfer rate limit

- a. を選択します "レプリケーションポリシー" を使用します。
- b. 1 回限りのコピーまたは繰り返し実行するレプリケーションスケジュールを選択します。
- c. 遅延時間、ステータス、および前回の転送時間に加えて、 SnapMirror 関係のレプリケーションの健全性もドリフトレポートに含める場合は、レプリケーションの健全性ステータスの監視を有効にします。 "ドリフトレポートでは、このような内容を確認できます"。

- d. 転送速度の上限を設定するかどうかを選択し、データの転送速度の上限（1秒あたりのキロバイト数）を入力します。固定値を入力するか、または最小値と最大値を指定して、ストレージ管理者にその範囲の値を選択させることができます。

4. [適用] をクリックして変更を保存します。

テンプレートの作成後の作業

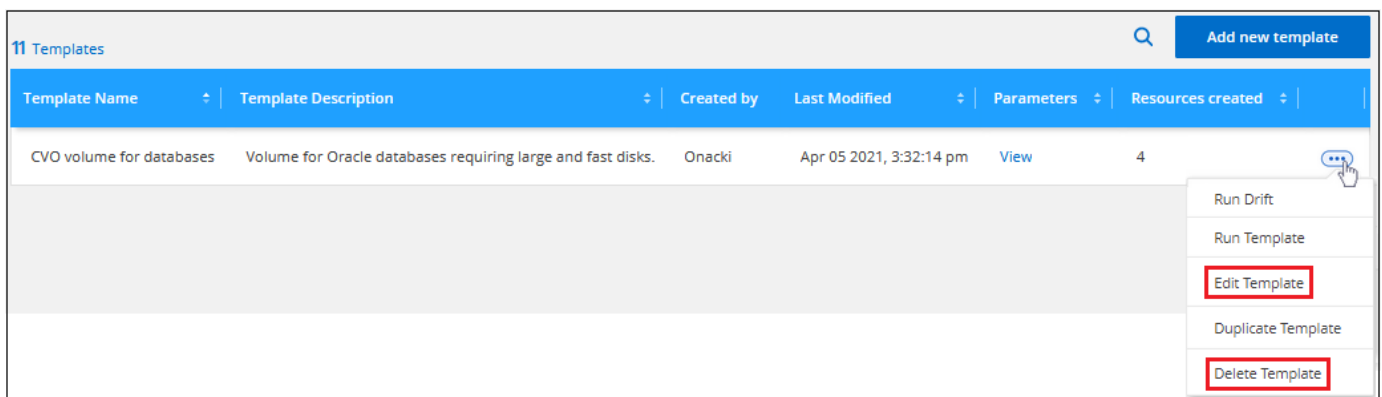
テンプレートを作成したら、新しい作業環境およびボリュームを作成する際にテンプレートを使用するようにストレージ管理者に通知する必要があります。

それらをに示すことができます ["テンプレートを使用したリソースの作成"](#) を参照してください。

テンプレートを編集または削除します

パラメータを変更する必要がある場合は、テンプレートを変更できます。変更を保存すると、テンプレートから作成された以降のすべてのリソースに新しいパラメータ値が使用されます。

不要になったテンプレートを削除することもできます。テンプレートを削除しても、そのテンプレートで作成されたリソースには影響しません。ただし、テンプレートを削除した後にドリフトコンプライアンスチェックを実行することはできません。



テンプレートのコピーを作成します

既存のテンプレートのコピーを作成できます。これにより、既存のテンプレートと非常によく似た新しいテンプレートを作成する場合に、時間を大幅に節約できます。新しい名前で作成し、テンプレートを編集して、テンプレートを一意にする結合アイテムを変更することができます。

3 / 90 Templates						Q	Add new template
Template Name	Template Description	Created by	Last Modified	View	Resources created		
Create AWS CVO (single)		Rabinovich	Aug 16 2021, 5:20:58 am	View	3		
Create CVO volume		Rabinovich	Aug 04 2021, 9:01:01 am	View	19	Run Drift	
Replication to OnPREM		Rabinovich	Aug 04 2021, 10:35:35 am	View	2	Run Template	
						Edit Template	
						Duplicate Template	
						Delete Template	

テンプレートのコンプライアンスについては、リソースを確認してください

Cloud Manager では、「ドリフト」機能を使用してテンプレートを使用してリソースが作成されたときに使用されたパラメータ値を監視できます。ドリフトは、変更され、テンプレート設定に適合しなくなったリソースを識別します。

この時点で、ドリフトはリソース内の変更されたパラメータを識別します。リソースを手動で調整して、テンプレートに準拠させる必要があります。

ドリフトの仕組み

ドリフトは、次のような非準拠パラメータを識別します。

1. テンプレートを作成するときに、ユーザーに変更をさせたくない特定のパラメーターのドリフトをオンにします。たとえば、テンプレートから作成されたすべてのボリュームに対して、「default」ポリシーを使用して Snapshot コピーの作成を要求できます。

Protection ⓘ

Snapshot Policy
 ☐ Editable
 ☒ Drift

Default
 ×
▼

2. テンプレートのドリフトをオンにして、テンプレートを保存します。

Settings & Drift

Settings

Template Description

Volumes for application testing

Drift

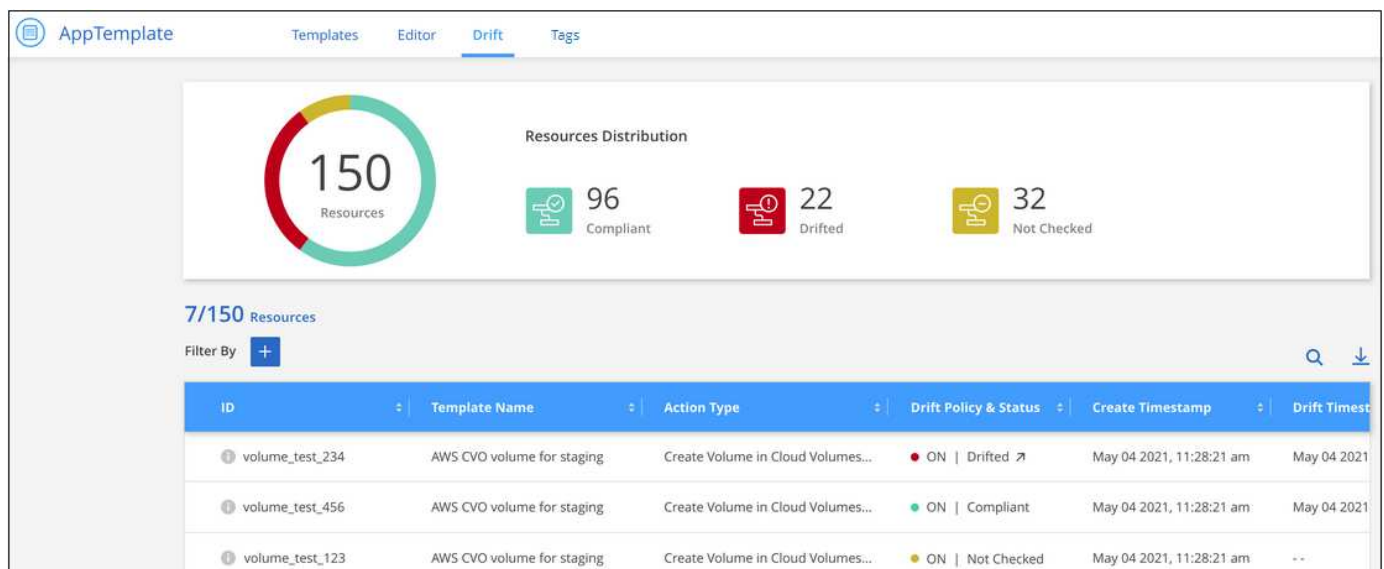
☐ Drift Off
We do not monitor any future changes to resources created with this template.

☒ **Drift On**
We will monitor future changes to resources created with this template. You can run a Drift Report to see which fields configured with Drift are no longer compliant with the template settings.

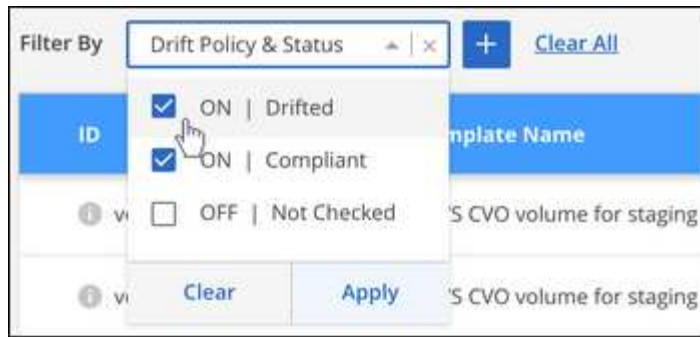
- ストレージ管理者は、テンプレートを実行してボリュームを作成します。
- ストレージ管理者がボリュームを編集し、Snapshot コピーは無効にします。
- すべてのテンプレートでドリフトチェックを実行し、AppTemplates サービスは Snapshot コピーテンプレートの設定とボリューム内の現在の設定を比較します。準拠していない値にはフラグが付けられ、間違った設定を修正できます。


ドリフトダッシュボード

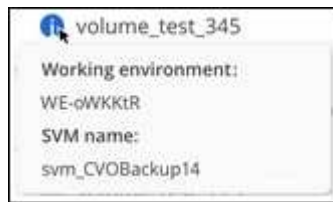
ドリフトダッシュボードには、テンプレートを使用して作成されたリソース（ボリュームなど）の総数、テンプレートに準拠している数、未準拠（ドリフト済み）の数、およびドリフトを使用して作成された数が表示されます。



- 各列の上部にあるコントロールを使用して、結果を数値またはアルファベット順にソートできます。
- 。 **+** テンプレート名、ドリフトポリシーとステータス、アクションタイプで結果をフィルタできます。
例：



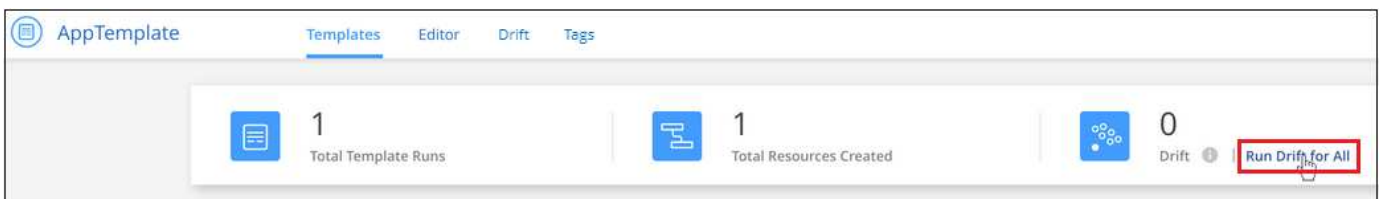
- 検索バーでは、特定のボリューム名またはテンプレート名を検索できます。
- 作業環境や Storage VM など、実際のリソース（またはボリューム）に関する詳細を確認するには、をクリックします .



ドリフトダッシュボードにデータを入力します

ドリフトダッシュボードの値を入力する前に、テンプレートでドリフトチェックを実行する必要があります。

テンプレートダッシュボードから、すべてのテンプレートのドリフトチェックを実行できます。



ドリフトチェックは、テンプレートダッシュボードから 1 つのテンプレートに対して実行できます。

AppTemplate

Templates Editor Drift Tags

1 Total Template Runs

1 Total Resources Created

0 Drift | Run Drift for All

5 Templates

Add new template

Template name	Resource type	Created by	Last Modified	Parameters	Resources created	
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Run Drift
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Run Template
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Edit Template
Cloud Volume ONTAP	Cloud Volume ONTAP Volume	Jhon Doe	Dec 16, 2020 02:13:59 pm UTC	10 View	0	Delete Template

非準拠リソースのドリフトレポートを作成します

1つのリソースのドリフトレポートを表示したり、レポートを実行してすべてのリソースのレポートをダウンロードしたりできます。このレポートを使用すると、システム管理者にアクションを割り当てて、リソースをテンプレートに準拠させる変更を加えることができます。

ドリフトダッシュボードでリソースのドリフトアイコンをクリックすると、非準拠の各リソースのパラメータのリストが表示されます。

7/150 Resources

Filter By +

Search Download

ID	Template Name	Action Type	Drift Policy & Status	Create Timestamp	Drift Timestamp
volume_test_234	AWS CVO volume for staging	Create Volume in Cloud Volumes...	ON Drifted	May 04 2021, 11:28:21 am	May 04 2021
volume_test_234	AWS CVO volume for staging	Create Volume in Cloud Volumes...	ON Drifted	May 04 2021, 11:28:21 am	May 04 2021
volume_test_345	AWS CVO volun				2021

Drift Details

Resource: volume_test_234

Resource Differences

Property	Change	Expected Value	Current Value
Disk Type	Not Equal	Premium_LRS	gp2
Tiering Policy	Not Equal	all	none

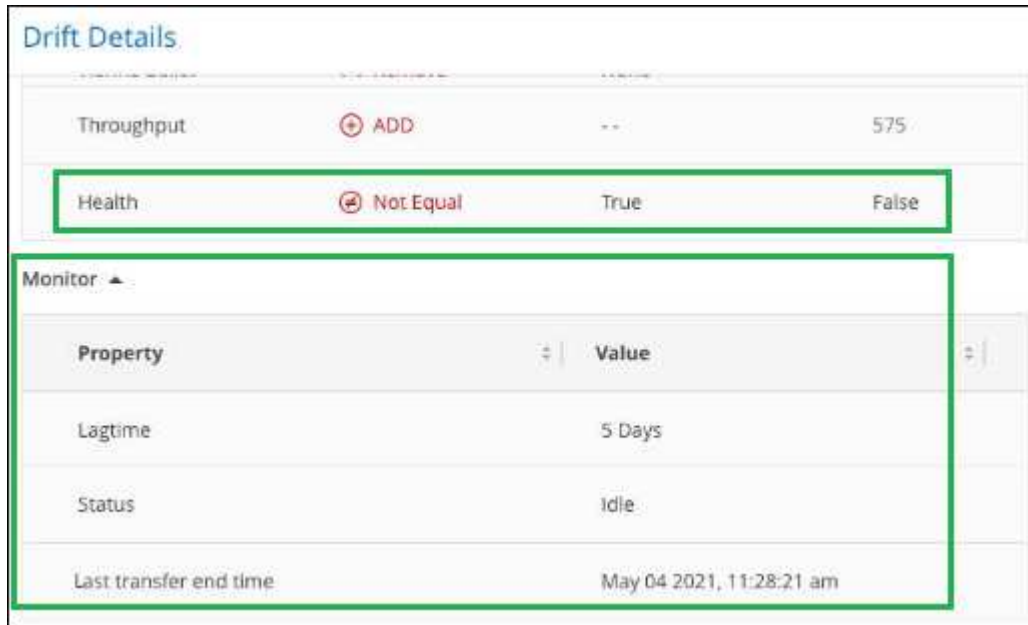
Close

テンプレートから作成されたリソースのドリフトレポートを表示するには、をクリックします。をクリックして .csv ファイルをダウンロードします。ドリフトレポートには、ページで現在フィルタリングされている内容が反映されます。ページにフィルタを適用しないかぎり、すべてのリソースが表示されるわけではありません。

ドリフトレポートでレプリケーションの健全性の詳細を確認します

いつ **"テンプレートを使用したボリュームでのレプリケーションの有効化"**では、[レプリケーションの正常性監視を有効にする] フィールドでドリフトを有効にすることにより、ドリフトレポートに詳細なレプリケーション情報を表示できます。ドリフトレポートが有効になると、SnapMirror 遅延時間、ステータス、および前回の転送時間に加えて、レプリケーション関係の健全性が正常であるか正常でない（ドリフトされた）が表示されます。

このスクリーンショットは、ドリフトレポートで異常な SnapMirror 関係のレプリケーションの詳細を示しています。



Drift Details	
Throughput	575
Health	Not Equal
True	False

Monitor	
Property	Value
Lagtime	5 Days
Status	Idle
Last transfer end time	May 04 2021, 11:28:21 am

- ・注：レプリケーションが最初にボリュームに適用されているときに、正常性は「False」として返されます。これは正常な状態ではありません。数分後に、実際のレプリケーションステータスが表示されます。

テンプレートを使用してリソースを作成または変更する

組織が構築したアプリケーションテンプレートの中から 1 つ選択して、特定のワークロードとアプリケーションに最適化された作業環境またはボリュームを作成します。また、テンプレートを使用してアクティブ化することもできます **"クラウドバックアップ"**、**"クラウドデータの意味"**および **"レプリケーション (SnapMirror)"** をクリックします。

テンプレートを使用すると、Cloud Volumes ONTAP、Azure NetApp Files、およびオンプレミスの ONTAP システム用のボリュームを作成できます。

クイックスタート

これらの手順を実行すると、すぐに作業を開始できます。また、残りのセクションまでスクロールして詳細を確認することもできます。

<https://raw.githubusercontent.com/NetAppDocs/common/main/media/number-1.png>

Alt="one "> 必要な前提条件を確認します

- テンプレートを使用して Cloud Volumes ONTAP、オンプレミス ONTAP、または Azure NetApp Files システム用のボリュームを作成する前に、ボリュームを導入する適切な作業環境にアクセスできることを確認してください。
- テンプレートが、などのボリュームのクラウドサービスをアクティブにした場合 ["クラウドバックアップ"](#) または ["クラウドデータの意味"](#) をクリックして、ご使用の環境でサービスがアクティブでライセンスされていることを確認してください。
- AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックします。

テンプレートを選択し、 **Run Template** をクリックして、編集可能フィールドに値を入力し、リソースを作成します。

要件

以下の要件を読み、サポートされている構成になっていることを確認してください。

- コネクタがない場合は、 ["コネクターの作成方法を参照してください"](#) AWS、Azure、GCP 向け。
- Cloud Volumes ONTAP ボリュームを作成するときは、Cloud Volumes ONTAP の作業環境が利用可能であることを確認してください。
- オンプレミスの ONTAP ボリュームを作成する場合は、オンプレミスの ONTAP 作業環境が利用可能であることを確認します。
- Azure NetApp Files ボリュームを作成するときは、Azure NetApp Files の作業環境が利用可能であることを確認してください。
- テンプレートが、などのボリュームのクラウドサービスをアクティブにした場合 ["クラウドバックアップ"](#)、["クラウドデータの意味"](#) または ["レプリケーション \(SnapMirror \)"](#) をクリックして、ご使用の環境でサービスがアクティブでライセンスされていることを確認してください。

ボリュームテンプレートを選択して実行します

テンプレートを選択して実行し、新しいボリュームを作成する方法は複数あります。

- 作業環境からボリュームテンプレートを実行します
- Templates ダッシュボードからボリュームテンプレートを実行します

どの方法を選択する場合でも、定義する必要があるボリュームの必須パラメータに関する詳細を以下のセクションで確認できます。

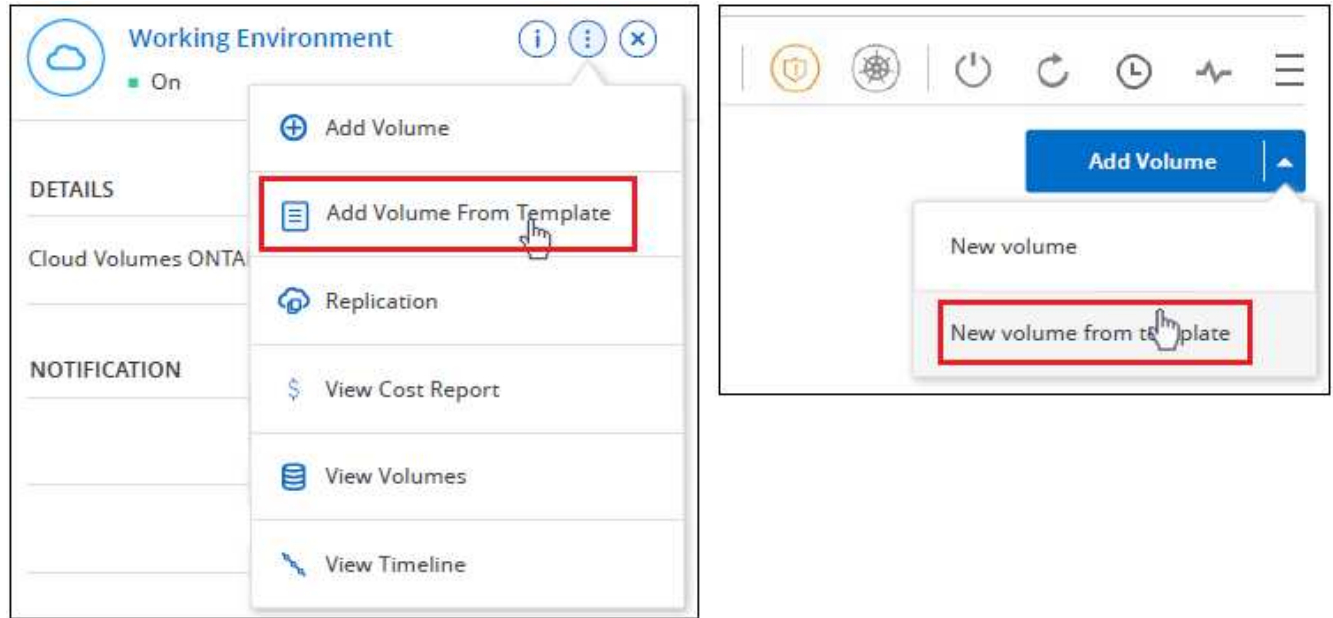
- ["Cloud Volumes ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法"](#)
- ["Azure NetApp Files ボリュームをプロビジョニングする方法"](#)
- ["オンプレミスの ONTAP ボリュームをプロビジョニングする方法"](#)

作業環境からボリュームテンプレートを実行します

既存の作業環境にボリュームを追加するには '_Working Environment_page' および '_Volume Details_page' を使用します

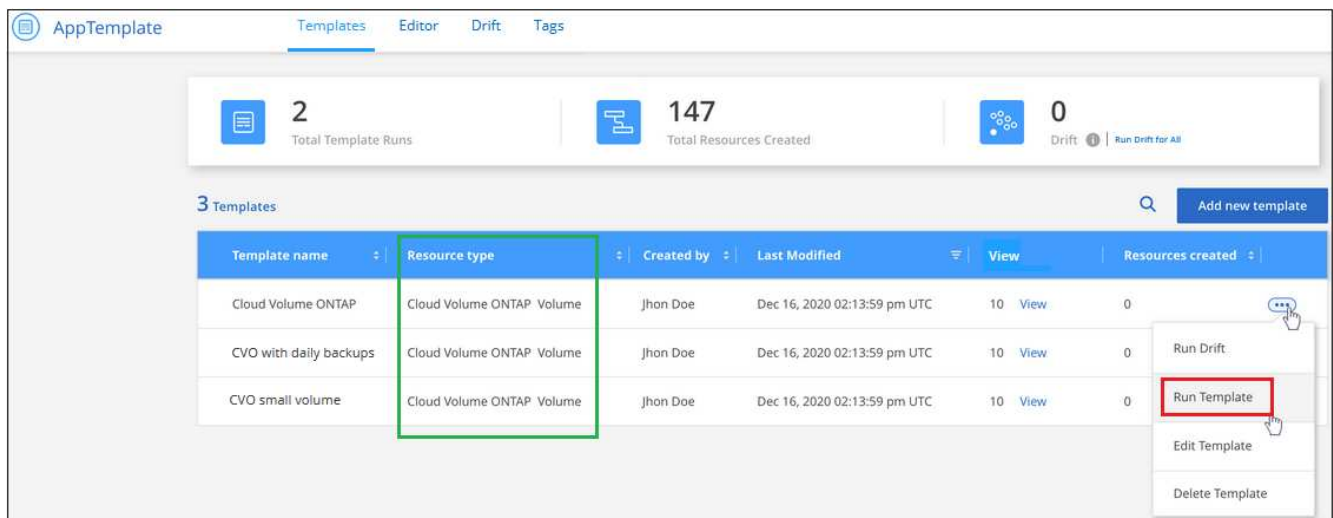
手順

1. 作業環境ページまたは _ ボリューム詳細 _ ページで、* テンプレートからボリュームを追加 * をクリックします。



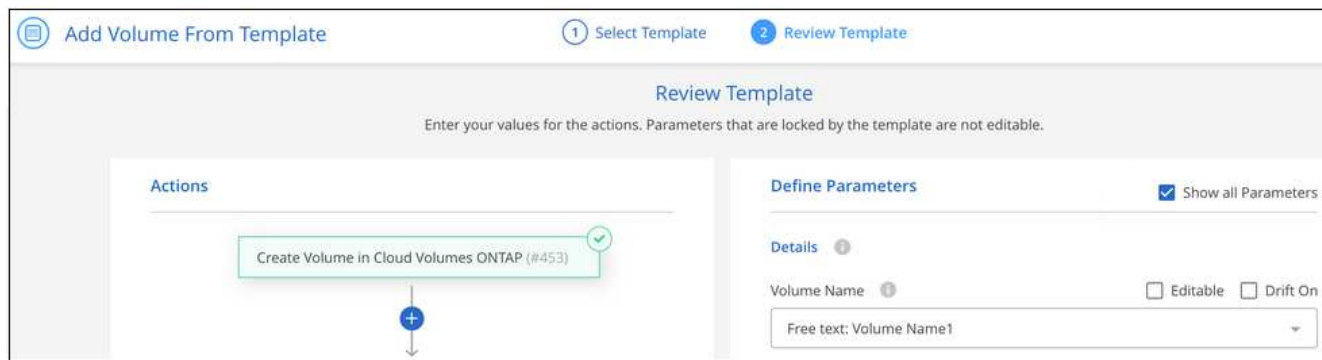
Templates Dashboard が表示され、選択した作業環境に適用できるテンプレートのみがリストされます。たとえば、Cloud Volumes ONTAP テンプレートのみが表示されます。

2. をクリックします ... アイコン"] および * テンプレートの実行 *。



Add_Volume from Template_page が表示されます。

3. 編集可能なフィールドに値を入力してボリュームを作成し、* テンプレートの実行 * をクリックします。



Templates Dashboard からボリュームテンプレートを実行します

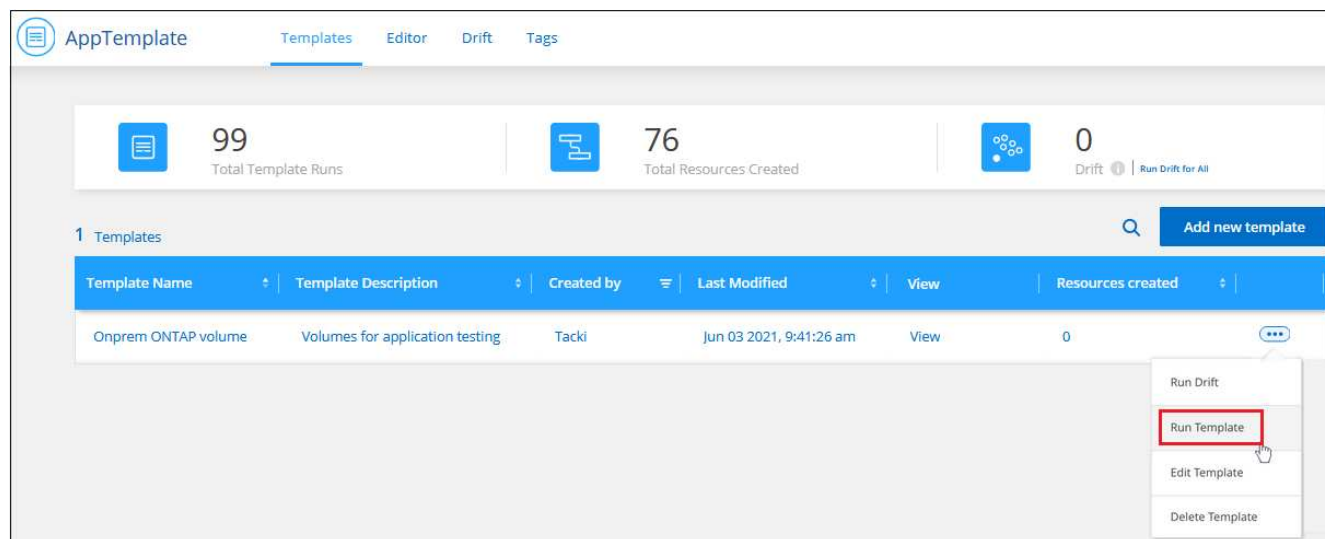
既存の作業環境にボリュームを追加するには、*Templates Dashboard* を使用します。

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、 * Templates * タブをクリックします。

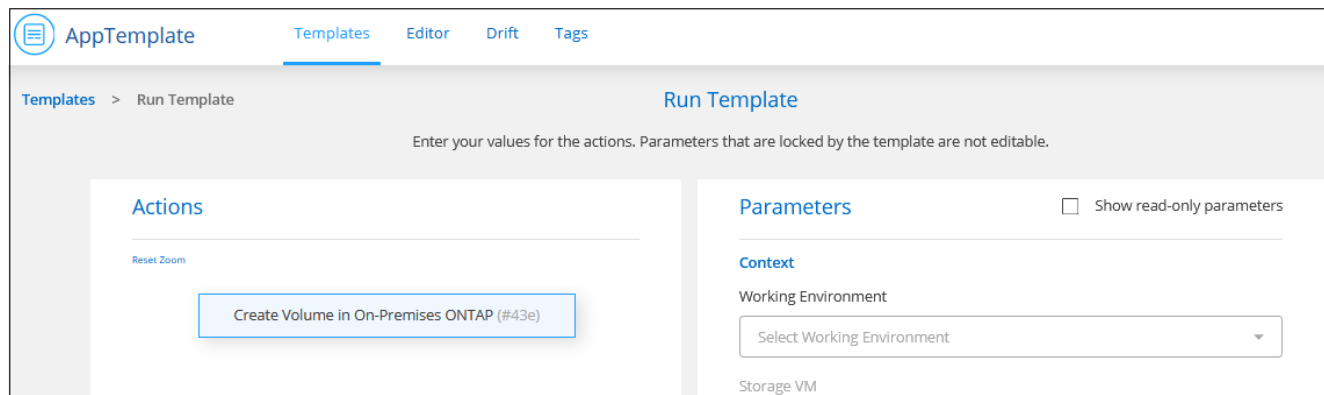
Templates Dashboard が表示されます。

2. 使用するテンプレートで、をクリックします ... アイコン"] および * テンプレートの実行 *。



Run Template_page が表示されます。

3. 編集可能なフィールドに値を入力してボリュームを作成し、 * テンプレートの実行 * をクリックします。



ダッシュボードからテンプレートを実行するときは、作業環境やその他の変数（Storage VM やアグリゲートなど）を選択する必要があります。作業環境からテンプレートを実行すると、作業環境が自動的に入力されます。

作業環境テンプレートを選択して実行します

この機能用のテンプレートを作成している場合は、_テンプレートダッシュボード_ から新しい作業環境を作成できます。

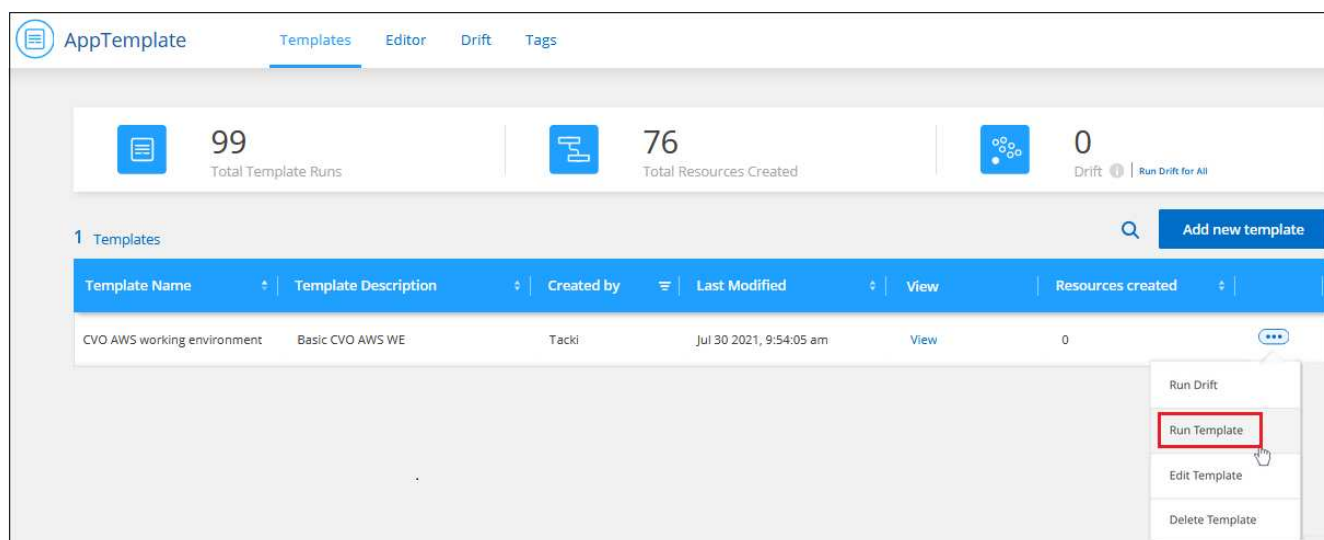
作業環境の作成に必要な詳細については、を参照してください ["AWS での Cloud Volumes ONTAP の起動"](#)。

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックします。

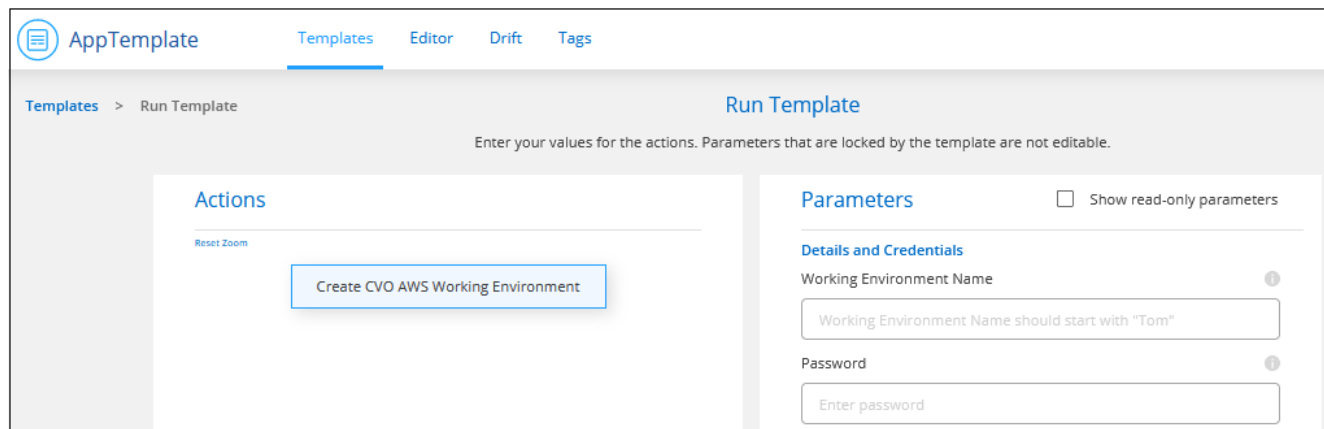
Templates Dashboard が表示されます。

2. 使用するテンプレートで、をクリックします **...** アイコン] および * テンプレートの実行 *。



Run Template_page が表示されます。

3. 編集可能なフィールドに値を入力して作業環境と最初のボリュームを作成し、* テンプレートの実行 * をクリックします。



既存のリソースを検出するテンプレートを選択して実行します

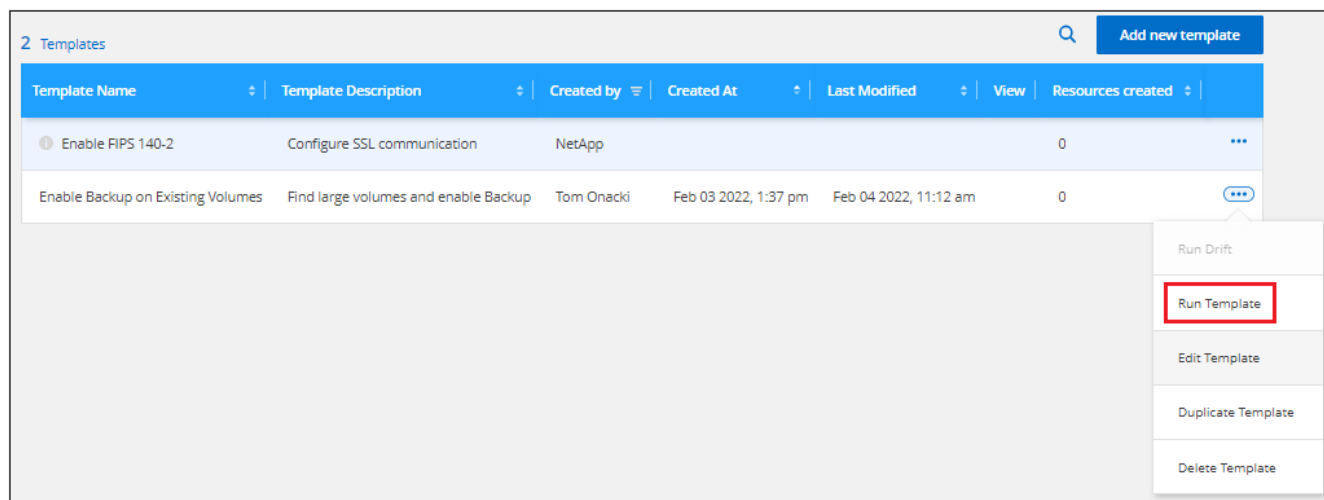
特定のリソース（ボリュームなど）を検出するテンプレートを実行し、それらのリソース（Cloud Backup など）に対してクラウドサービスを有効にすることができます（この機能を使用してテンプレートを作成している場合）。テンプレートの実行中に若干の調整を加えて、クラウドサービスを適切なリソースにのみ適用することができます。

手順

1. * AppTemplate* サービスを選択し、* Templates * タブをクリックします。

Templates Dashboard が表示されます。

2. 使用するテンプレートで、をクリックします **...** アイコン"] および * テンプレートの実行 *。



Run Template page が表示され、テンプレートで定義された検索がすぐに実行されて、条件に一致するボリュームが検索されます。

3. 返されたボリュームのリストを Volume Results_area に表示します。

Run Template

Enter your values for the actions. Parameters that are locked by the template are not editable.

Actions

- + Reset Zoom

```

graph TD
    A[Find Existing Resources (#1ef)] --> B[Enable Cloud Backup On Volume (#fe4)]
  
```

Parameters ☐ Show read-only parameters

Search Criteria ✎

Resource Type: Volumes in Cloud Volumes ONTAP

Working Environment: CloudVolumesONTAPHA

Storage VM: svm_CloudVolumesONTAPHA

Volume Size (GB): 100 - 500

17 Volumes Found

VolumeName_long_string_188bbfh7	125 GB May 11, 2021 key_a: value_a +3	<input checked="" type="checkbox"/>
VolumeName_long_string_abc	257 GB May 17, 2021 key_bbb: value_b1b1 +11	<input checked="" type="checkbox"/>
Volume_string_ffjk78s	304 GB May 21, 2021 key_c: value_c1 +23	<input checked="" type="checkbox"/>

4. 期待通りの結果が得られた場合は、テンプレートの `_Enable Cloud Backup on Volume_part` の条件を使用して、Cloud Backup を有効にする各ボリュームのチェックボックスをオンにし、`* Run Template *` をクリックします。

結果が想定どおりでない場合は、をクリックします  をクリックし、さらに検索条件を絞り込んでください。

テンプレートが実行され、検索条件で選択した各ボリュームで Cloud Backup が有効になります。

すべてのエラーは、`_Running Your Template_page` で呼び出され、必要に応じて問題を解決できます。

Copyright Information

Copyright © 2022 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system-without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.